

〔報 告〕

自閉症スペクトラム障害児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況に関する研究

藤井 清美^{1) 2)} 牛尾 禮子¹⁾

要 旨

目的：本研究では、自閉症スペクトラム障害児（Autism Spectrum Disorder：ASD、以下ASD児と略す）をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況を明らかにし、母親のメンタルヘルスを支援する示唆を得ることである。

方法：ASD児の母親10名に半構成的面接を行い、得られたデータを質的帰納的に分析した。

結果：ASD児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況には【体調が良い】【夫が子育ての協同者である】【子どもの存在が心の支えになっている】【家族以外に信頼できる人がいる】【楽しみがある】【自分の時間がある】【自分の価値を確認できている】【母親役割を肯定的に捉えている】の8つのカテゴリーが導き出された。

結論：ASD児をもつ母親の基本的欲求の状況およびその欲求間の関連では、『愛・所属の欲求』が『力の欲求』『楽しみの欲求』『自由の欲求』に連動し、さらに『生存の欲求』と『楽しみの欲求』とは相互関係にあった。そして、母親が快適に生活し、自分らしく生きていくためには基本的欲求が満たされることが重要であり、その中核になるものとして『愛・所属の欲求』があることが導き出された。そのことから、母親が夫をはじめとする家庭内での人間関係を良好に維持できるような支援が必要であることが示唆された。

キーワードズ：基本的欲求、満たされている状況、母親、自閉症スペクトラム障害児

1. 緒 言

近年、少子化や核家族化に伴い、家庭内での人間関係が希薄となり、母親の孤立感を高めている。母親の孤立感は、育児ストレスや育児不安を高め、母親の深刻な精神的問題を引き起こし、子どもへの虐待など家庭内での人間関係が崩壊している場合もある。

このような状況のなか、発達障害児をもつ母親は、子どもが他者とのやり取りが円滑にできないことや子どもにこだわり行動がみられることなど、何らかの違和感や独特な育てにくさを感じていること

が多く、母親の育児ストレスは、健常児の母親の育児ストレスよりも大きいといえる（庄司，2007；刀根，2002）。また、運動発達障害児をもつ母親と軽度発達障害児（広汎性発達障害児・軽度発達遅滞児）をもつ母親の育児ストレスを対比した結果、軽度発達障害児をもつ母親のほうが育児ストレスも疲労感も大きいことが明らかになっている（渡部，岩永，鷺田，2002）。さらに、桑田，神尾（2004）は広汎性発達障害児（Pervasive Developmental Disorder：PDD，以下PDD児と略す）をもつ母親の育児ストレスは他の障害をもつ母親と比較して高いことを指摘している。

これらのことから、自閉症スペクトラム障害児（Autism Spectrum Disorder：ASD，以下，ASD

1) 姫路大学看護学部看護学科

2) 大阪総合保育大学大学院児童保育研究科

児と略す)をもつ母親の育児ストレスは、より大きいことが予測される。また、発達障害児をもつ母親の子育て支援の前提には、母親たちが孤立化する背景があることから、母親の子どもへの認識や生活状況について把握することは重要である。

マズロー (Abraham H. Maslow, 1908-1970) は、人間の基本的欲求を「生理的欲求」、「安全の欲求」、「所属と愛の欲求」、「承認の欲求」、「自己実現」の5つに分類し、それらをヒエラルキー (階層) として示した。さらに、基本的欲求と健康との関係について、欲求充足の程度と健康状態は正の相関関係にあることを示している。また、ゴープル (Frank G. Goble, 1917-2000) は、基本的欲求を満足させている人は幸福であり、欲求が満たされていない人は精神疾患の兆候を示すことを指摘している (Goble, 1970)。つまり、基本的欲求が十分に満たされている人は、より健康で幸福感に満たされ、社会のなかで、その人がその人らしく充実した生活を送ることができることを示唆している。

そして、選択理論の提唱者であるグラッサー (William Glasser, 1925-2013) は、ストレスなどの心理的な悩みを抱えている人は、家族等の重要他者との関係がうまく築けてなく、人間が本来もっている基本的欲求『愛・所属の欲求、力の欲求、楽しみの欲求、自由の欲求、生存の欲求』(表1) が満たされていないことが原因であると、ストレスと基本的欲求との関連について説明している。また、彼は、人は基本的欲求により動機づけられ、それらを満たそうとして行動していることを示している。つまり、基本的欲求は人が快適に生活したり、より良く生きていくためには必要不可欠なものである。特にストレスフルな母親においては基本的欲求を満たすことは重要である。

そのことから、マズローもグラッサーも基本的欲求が心理的健康と密接に関係していることを示している。しかし、Maslow (1970) は、生理的欲求はあらゆる欲求のなかで、最も優勢であることを示し、そのほかの欲求に対して優位性をもつことを指

摘している。また、欲求のヒエラルキーについて、彼は「優勢さのヒエラルキーを昇るにつれ満足の度は減少する… (中略) …生理的欲求では85%、安全の欲求では70%、愛の欲求では50%、自尊心の欲求では40%、自己実現の欲求では10%が充足されているようである」(p. 83) と述べていることから、生理的欲求が大きな割合を占めていることを前提にしている。それに対して、Glasser (1998) は人の基本的欲求について、「私たち一人ひとりには、独特な欲求を満たすためのレベルを持っている」(p. 30) と述べ、個人の欲求には、人によって強さのレベルがあることを前提にしている。それは、身体的欲求と心理的欲求を優勢的に捉えず、それぞれの欲求を同列に位置付けていることを意味する。

そこで、ストレスや不安が強い傾向にあるASD児をもつ母親を理解する上では、前述のとおり、ストレスなどの心理的問題を抱える人は他者との人間関係がうまく構築できていないことを考慮することが必要である。そして、心理的欲求のなかでも、ある人にとっては自己実現の欲求が愛の欲求よりも優位なことがあるため、優勢性に捉われていないグラッサーの心理的欲求を重視した基本的欲求に着目することが重要である。

そのため、グラッサーの基本的欲求に着目することは、母親のメンタルヘルスを支援する上で、援助の示唆が得られるものと考えた。

ASD児をもつ母親に関する先行研究においては、

表1. グラッサーの5つの基本的欲求

心	「愛・所属」の欲求	愛し愛されたい 仲間の一員でいたい
	「力 (承認)」の欲求	認められたい、達成したい 人の役に立ちたい
	「自由」の欲求	自分のことは自分で決めたい 強制されたくない
	「楽しみ」の欲求	自分の好むことをしたい 楽しみたい
体	「生存」の欲求	食べたい 寝たい 休みたい

出典：柿谷正期、井上千代 (2011) 選択理論を学校に ほんの森出版 p. 14

母親の心理的過程や生活に注目し、母親の苦悩を捉えた研究（今井，浅野，小林，2006；吉岡，2006；小池，古川，大西，2007；朝倉，高橋，2007；坂本，一門，2011；尾野，茂木，2012；川上，2013；河野，2013；松岡，玉木，初田，2013）や，ストレスの要因（坂口，別府，2007；岡野，武井，寺崎，2012），およびストレスとの関係（森口，岩満，山本，2008；山田，2010；山根，2011；浅野，古澤，大橋，2011；後藤，小川，藤樫，2012），養育者のためのプログラムの効果（津田，田中，高原，2012；中山，2012；柳川，平尾，加藤，2012）についてのものは散見されたが，ASD児をもつ母親の基本的欲求に関する研究は見当たらなかった。

II. 研究目的

本研究の目的は，ASD児をもつ母親が生活のなかで，何がどのように満たされているのか，母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況を明らかにすることである。

III. 用語の定義

1. 自閉症スペクトラム障害

自閉症スペクトラム障害は，言語的・非言語的なコミュニケーションの障害，対人的相互反応の発達の社会性の障害，想像力や柔軟性が乏しい想像力の障害といった3つ組の障害とする。また，自閉症スペクトラム障害をアメリカ精神医学会（American Psychiatric Association）による診断基準マニュアルのDSM-5（DSM：Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders「精神障害の診断と統計マニュアル：第5版テキスト改訂版」）に準じた。

2. 基本的欲求

Glasser（1965, 1998）は，基本的欲求を「いかなる文明文化に属そうともすべての人びとに共通した基本的欲求がある」と述べ，それらを『生存』『愛・所属』『力（承認）』『自由』『楽しみ』の5つに集約

している。これらを基に，本研究では基本的欲求を「人間が生命を維持し，生活を営むなかで誰もがもっている欲求」とした。

3. 母親の主観的な基本的欲求

母親自身が子育ておよび家族への思い・感じ方など，日々の生活のなかで求めている欲求とした。

4. 満たされている状況

Glasser（1998）は選択理論のなかで，人の行動を「全行動」と言い変えて，「行為」「思考」「感情」「生理反応」の4つの構成要素から成り立ち，分離することができないことを説明している。そして，「感情」は「行為」や「思考」により影響され，変動するとも説明していることから，本研究では欲求を満たす行為を含め，日々の生活のなかで心が満たされていると感じている状況とした。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

本研究は，ASD児をもつ母親が日々の生活のなかで，子育てや家族に対して思っていること，感じていることなどを聞き取り，表記した。そして，表記したものを研究者の先入観や予測に捉われることなく，その現象の意味を探求しながら，満たされていると感じている状況について記述することを目指し，質的記述的デザインを用いた。

2. 研究協力者および研究期間

1) 研究協力者

小児科や児童精神科等の専門機関で，ASD（PDDを含む）の診断を受けた幼児期から学童期の子どもをもつ母親10名である。

2) 研究期間

平成24年4月から平成25年12月，データ収集期間は平成25年3月から平成25年5月までである。

3. データ収集方法および分析方法

ASD児をもつ親の会の代表者に，研究の趣旨について文書をもって，口頭で説明し，書面で同意を得，代表者からそれぞれの母親の紹介を受けた。母

親に対しても、研究の趣旨について文書を用い、口頭で説明し、書面で同意を得た。データ収集は半構成的面接を行った。面接内容は「心身の体調について」、「家族について」、「子育てについて」、「自分について」、「友人・職場・近隣との関係について」など、インタビューガイドを用いたが、自由に語ってもらうことを基本とした。面接時間は、一人あたり約60分程度とし、語られた内容は研究協力者の許可を得てICレコーダで録音した。

面接によって得られたデータを逐語録におこして精読した。事例ごとに、ASD児の母親が日々の生活のなかで心が満たされていると感じている状況が示されている部分を、文脈に留意しながら1つのまとまりとして捉えた。そして、その文脈に沿って、母親が語った内容から意味している最小の分節を対象者の言葉のままとし、それらの意味をできるだけ損なわないようにコード化した。それから、類似する意味のあるものを組み合わせサブカテゴリーとして、そのサブカテゴリーの意味が共通しているものを合わせて、抽象度を上げ、カテゴリーとして再統合した。分析過程では、複数の質的研究者よりスーパーバイズを受け、再検討や修正を行い、真実性と妥当性の確保に努めた。

4. 倫理的配慮

本研究は関西福祉大学倫理審査委員会の承認を得て行った。面接を始める前に研究の目的、方法、研究参加の自由、研究のいずれの時点でも参加を取り止めることができること、プライバシーおよび個人情報保護の保護、研究結果の公表方法、連絡先について説明した。また、個人情報の保護としては、氏名は記号化すること、録音記録と逐語録の保存方法・保存期間、研究終了後には確実に破棄することを説明した。それらを文章と口頭で説明し、書面にて同意を得た。

V. 結果

研究協力者の年齢は32～49歳（平均40.1歳）で

あった。仕事をもっている母親は5名で、いずれもパートタイムの仕事であった。家族構成はひとり親家庭（母親の両親と同居）が1名、夫の両親と同居している母親が1名、夫の父親のみと同居している母親が1名、他7名は夫と子どもたちのみであった。親の会に参加している母親は7名であった。以前は参加していたが、現在は参加していない母親は2名であり、1名は全く参加したことがなかった。きょうだいともにASDをもつ子どもの母親は3名いた。子どもの年齢は、きょうだいも含め13名で5～13歳（平均9歳）であった。そのうち3名が特別支援学校、7名が特別支援学級、1名が通常学級に通学し、1名が保育園、1名が幼稚園に通園していた。研究協力者の概要は表に示す（表2）。

分析の結果、ASD児をもつ母親の基本的欲求が満たされている状況に関するカテゴリーは【 】, サブカテゴリーは〈 〉, 母親が語った言葉をコード化し、「 」で示し（表3）、カテゴリーごとに説明する。

1. 体調が良い

【体調が良い】のサブカテゴリーは、〈体調が良い〉、〈体重が減ることなく、食事はしっかり摂れている〉、〈目覚めも良く、睡眠は十分とれている〉であった。

母親は子育てが忙しいなかでも、趣味の「フラダンスをしていることで、体調が良い」など【体調が良い】状況であり、《生存の欲求》は満たされていた。また、〈体調が良い〉状況では、「いつも普通に元気である」、「からだ的にはしんどいことはない」などがあった。さらに、「美味しいものを食べて幸せを感じている」と食欲もあり、〈体重が減ることなく、食事はしっかり摂れている〉という状況であった。さらに、睡眠も「子どもと寝るぐらい、睡眠時間を十分とっている」とあり、子どもとともに早めに寝るなど生活のペースを調整し、〈目覚めも良く、睡眠は十分とれている〉状況であり、《生存の欲求》は満たされていた。

表2. 研究協力者の概要

母親 ID	母親の年齢	子ども ID	子どもの年齢・性別	子どもの診断名 (診断を受けた年齢)	学級	家族成員	親の会への参加の有無	職業
A	40歳代	a	12 男児	自閉症傾向・ダウン症 (3歳6ヶ月)	特別支援学校	夫 長男 a 長女	地域の親の会に参加していたが、現在は参加していない	無
B	40歳代	b	11 男児	自閉症・知的障害 (3歳)	特別支援学校	夫 長女 次女 長男 次男 b	以前に参加していたが、現在は参加していない	家業
C	40歳代	c	5 男児	広汎性発達障害 (3歳)	保育園 (療育)	義父 夫 長男 c	1年ほどから参加している	パート勤務
D	40歳代	d1	11 男児	広汎性発達障害 (3歳6ヶ月)	特別支援学級	実父 実母 長男 d1 長女 d2	無	パート勤務
		d2	7 女児	広汎性発達障害 (5歳)	特別支援学級			
E	30歳代	e	7 男児	広汎性発達障害・多動 (4歳)	特別支援学級	夫 長男 e 次男	有	無
F	30歳代	f	9 女児	広汎性発達障害の疑い (1歳6ヶ月) 自閉症 (2歳)	特別支援学級	夫 長男 長女 f 次女	有	パート勤務
G	30歳代	g	8 男児	広汎性発達障害・自閉症 (1歳10ヶ月)	特別支援学級	義父 義母 夫 長女 長男 g 次男	有	無
H	30歳代	h1	9 男児	高機能広汎性発達障害 (2歳)	特別支援学級	夫 長男 h1 次男 h2	有	無
		h2	5 男児	広汎性発達障害 (2歳)	幼稚園			
I	30歳代	i	11 男児	自閉症 (2歳)	特別支援学級	夫 長男 I 次男	有	パート勤務
J	40歳代	j1	13 男児	広汎性発達障害 (3歳9ヶ月)	特別支援学校	夫 長男 j1 次男 j2	有	パート勤務
		j2	9 男児	広汎性発達障害 (5歳)	通常学級			

2. 夫が子育ての協同者である

【夫が子育ての協同者である】のサブカテゴリーは、〈夫が子育てに協力してくれる〉、〈夫も子どもの将来のことを心配してくれる〉、〈夫は何でも相談でき、大切にしてくれる〉、〈夫が心の拠り所である〉であった。

母親において、生活共同体の一員である夫の存在は【夫が子育ての協同者である】ことで、基本的欲求は満たされていた。それは、子育てのなかで「夫に子どものことを見てもらえるのは、出かけることもできるし、安心で助かる」、「夫に子どものことを見てもらえるというのは楽で助かる」、「私が疲れている時は、(説明会に)ついて来て一緒にやってくれる」など、〈夫が子育てに協力してくれる〉存在

であり、子育ての協同者としての所属感が高まり、『愛・所属の欲求』は満たされていた。また、母親は「夫も子どもの将来のことは、すごく心配してくれる」ことや、「夫も二人ともちゃんと仕事ができるのだろうか、これからどうするのだろうか心配してくれる」など、一緒に〈夫も子どもの将来のことを心配してくれる〉ことで、心の支えとなり『愛・所属の欲求』は満たされていた。さらに、子育てにおいて、悩みが多い母親は「主人に言うには気兼ねはない」、「夫には何でも言える」、「夫には何でも相談できる存在である」など、「夫が話を聞いている時は、何か自分のことを大切にされているように感じる」ということから、〈夫は何でも相談でき大切にしてくれる〉状況であった。そして、「主

表3. 自閉症スペクトラム障害児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (一部)
体調が良い	体調は良い	いつもは普通に元気であるからだ的にはしんどくない フラダンスをしていることで、体調が良い
	体重が減ることなく、食事はしっかり摂れている	食事もしっかり摂れている 体重がそんなに減っていない 美味しいものを食べて幸せを感じている
	目覚めも良く、睡眠は十分とれている	睡眠も十分とれている 子どもと寝るぐらい、睡眠時間を十分とっている
夫が子育ての協同者である	夫が子育てに協力してくれる	夫は前よりちょっと協力するようになった 夫に子どもを見てもらえるのは、出かけることもできるし、安心で助かる
	夫も子どもの将来のことを心配してくれる	夫も子どもの将来のことは、すごく心配してくれる 夫も二人ともちゃんと仕事ができるのだろうか、これからどうするのだろうかと心配してくれる
	夫は何でも相談でき、大切にしてくれる	主人は自分のことを気にしてくれている感じはある 夫が話を聞いてくれている時は、何か自分のことを大切にされているように感じる 夫には何でも言える 夫は何でも話ができる存在である 主人にも子どものことを相談する 主人に言うには気兼ねはない
	夫が心の拠り所である	主人が心の拠り所である 主人が強いので頼もしい
子どもの存在が心の支えになっている	子どもからの優しい心遣いがある	今は長女が話し相手だったり、相談相手だったりする トイレで吐いたり、私が倒れたときは長男が毛布をもってきてくれた お兄ちゃんは本当に家で手伝いもしてくれるし、洗濯物もたんでくれたりするので本当に楽になった 娘は「大好きだから」と言ってくれる 「ごめんね、お母さん、今日はお父さんと寝るから、明日、お母さんと一緒に寝てあげるね」と言ってくれる
	子どもの存在を幸せに感じている	やはりかけがえのない子 やはり子どもがいるということを幸せに思う 落ち着いてるとか、二人で何だかんだ言いながら遊んでるの見てると幸せと思う
家族以外に信頼できる人がいる	妹夫婦が良き理解者である	子どものことや子育てとかで理解してくれる妹夫婦がいる 妹夫婦が相談とかしやすいし、助言をもらっている
	同じ境遇にある母親同士の仲間意識が高い	養護のお母さんたちのなかで、何でも話せる人は何人かいる 養護のお母さんと話すのはすごく楽で良い 親の会の人のほうが話しやすい 〇〇の支援学級のお母さん同士は仲がいい 小学校も幼稚園も親の会ができてるので、何でも話ができる友人はいる
	近所や職場に何でも相談できる友人がいる	近くによく知った人がいて、よく話せる人がいる 下の子はスポーツ少年団に入っているの、そこでバアッと話したりする 職場の経営者の奥さんには、子どもの障害のこととか、何でも相談できる
	家族以外での良き理解者の存在が大きい	習い事の先生はこの子は生きる力があると、私を励ましてくれる 散歩なんかで出会って、昔話を聞いたりすると、ある意味励まされる 当事者のお母さん同志だと共感してもらえるところがあり、存在が大きい
楽しみがある	趣味や好きなことをして過ごしている	2年前ぐらいから、趣味でフラダンスをしている フラダンスが今の楽しみ 22時から1時間ぐらいは、本を見たり、ゲームしたり、自分なりに楽しんでいる 4時ぐらいに起きて、コーヒー飲んだり、静かなひと時が楽しみ
	夫や子どもとともに楽しんでいる	趣味というより、主人と出かけたり家族と一緒に出かけたり、買い物に行ったりとかが良かった 子どもが学校に行っている間に、二人だけで映画を見に行ったり 娘は穏やかなので2人っきりの時間は、すごい穏やかで私は結構好き
	子どもの成長が嬉しい	子どもができなかったことができると嬉しい 子どものできるようになったところを発見すると嬉しい イラっとすることも多少あるけど、おもしろいなって思う
自分の時間がある	1日のなかで自分だけの時間がある	朝4時から6時ぐらいが唯一静かで1人で過ごせる時間 子どもが学校に行ってくれている時間が自由な時間 子どもが寝たあと、ほっとする
	自分の時間があり、落ち着いている	家事が終わって、みんなが寝てくれた時間が、ほっとする 子どもを学校に送り出してから、ちょっとほっとする時間も持とうと決めている
自分の価値を確認できている	人に認められたり、自分が役に立っていることが嬉しい	仕事してて、達成感ではないけど、なんか自分が役に立っていると思う 仕事だけではないけど、子育ても含めて、やりがいとかある (客から) すごく褒めていたというのを聞いたりすると達成感がある
	自己の成長を感じている	少しずつ自分の気持ちも強くなったり、子どもを通して成長したりする部分があると思う この子はこの子と思えるように少しずつなってきた
母親役割を肯定的に捉えている	母親としての役割意識が高い	意外と子どもといえるのは好きなので、子離れできないほうだと思う 私は子育てについては全部見てやりたい
	子育てに前向きである	支援学校に行き出してからは、今を大事にしたほうがいいと思えるようになった 全然、思うようにならないので、修業させてもらっている感じ
	子育てのなかで調整をしている	本を読んだり講演を聞いて、納得している 今はそれを捨てて、これを捨ててって感じで、対処方法が見えてきた

人が強いので頼もしい」と思えることなど、〈夫が心の拠り所である〉状況から、【夫が子育ての協同者である】ことにより『愛・所属の欲求』が満たされていた。

3. 子どもの存在が心の支えになっている

【子どもの存在が心の支えになっている】のサブカテゴリーは、〈子どもからの優しい心遣いがある〉、〈子どもの存在を幸せに感じている〉であった。

家族には、夫以外に定型発達の子どもの生活している。そのなかで、障害のある子どもと定型発達の子どもの両方を含め、【子どもの存在が心の支えになっている】状況であった。そのきょうだいのなかで、「今は長女が話し相手だったり、相談相手だったりする」ことや、「お兄ちゃんは本当に家で手伝いもしてくれるし、洗濯物もたたんでくれたりするので、本当に楽になった」とあり、子どもたちから助けられていることを感じていた。また、「娘は『大好きだから』と言ってくれる」ことや、子どもから「『ごめんね、お母さん、今日はお父さんと寝るから、明日お母さんと一緒に寝てあげるね』と言ってくれる」など、〈子どもからの優しい心遣いがある〉状況で、『愛・所属の欲求』は満たされていた。そして、障害があってもなくても子どもたちのことを「やはり子どもがいることを幸せに思う」とあり、「やはり、かけがえのない子」として捉え、〈子どもの存在を幸せに感じている〉ことで、『愛・所属の欲求』が満たされていた。

4. 家族以外に信頼できる人がいる

【家族以外に信頼できる人がいる】のサブカテゴリーは、〈妹夫婦が良き理解者である〉、〈同じ境遇にある母親同士の仲間意識が高い〉、〈近所や職場に何でも相談できる友人がいる〉、〈家族以外での良き理解者の存在が大きい〉であった。

夫や子どもたちからだけでなく【家族以外に信頼できる人がいる】ことは、周囲の人からも大切にされていることを意味し、『愛・所属の欲求』は満たされていた。それは、「子どものことや子育てとか

で理解してくれる妹夫婦がいる」こと、「妹夫婦から助言をもらっている」ことで、〈妹夫婦が良き理解者である〉状況であった。また、母親は「養護のお母さんたちのなかで、何でも話せる人が何人かいる」こと、「養護のお母さんと話すのはすごく楽しい」、「親の会の人のほうが話しやすい」、「〇〇の支援学級のお母さん同士は仲がいい」などとあり、〈同じ境遇にある母親同士の仲間意識が高い〉状況であった。さらに、「近くによく知った人がいて、よく話せる人がいる」ことや、「職場の経営者の奥さんには、子どもの障害のこととか、何でも相談できる」、「下の子はスポーツ少年団に入っているの、そこでバァと話したりする」こともあり、〈近所や職場に何でも相談できる友人がいた〉。それから「(子どもの) 習い事の先生はこの子は生きる力をもっているよと、すごく私を励ましてくれる」こと、「当事者のお母さん同士だと共感してもらえることがあり、存在が大きい」状況であった。そして「泣き言が言える環境があるのはいい」と思っており、〈家族以外での良き理解者の存在が大きい〉、母親にとって【家族以外に信頼できる人がいる】ことから、『愛・所属の欲求』が満たされていた。

5. 楽しみがある

【楽しみがある】のサブカテゴリーは、〈趣味や好きなことをして過ごしている〉、〈夫や子どもとともに楽しんでいる〉、〈子どもの成長が嬉しい〉であった。

母親は子育てで忙しいなかでも〈趣味や好きなことをして過ごしている〉、〈夫や子どもとともに楽しんでいる〉、〈子どもの成長が嬉しい〉とあり、【楽しみがある】状況であった。ある母親は趣味の「フラダンスが今の楽しみ」であったり、子どもが寝たあとの「22時から1時間ぐらひは、本を見たり、ゲームをしたり自分なりに楽しんでいる」、また「4時ぐらひに起きて、コーヒーを飲んだり、静かなひと時が楽しみ」であったり、母親は時間を調整しながら〈趣味や好きなことをして過ごしている〉ことで『楽しみ欲求』を満たしていた。また、「趣味

というより主人と出かけたり、家族と一緒に出かけたり、買い物に行ったりとかが良かった」こと、「娘は穏やかなので2人っきりの時間は、すごい穏やかで結構好き」など、〈夫や子どもとともに楽しんでいる〉ことでも『楽しみの欲求』は満たされていた。さらに、母親は「子どもができなかったことができる嬉しい」ことや、「イラっとすることも多少あるけど、おもしろいなって思う」ことから、〈子どもの成長が嬉しい〉状況で、『楽しみの欲求』が満たされていた。

6. 自分の時間がある

【自分の時間がある】のサブカテゴリーは、〈1日のなかで自分だけの時間がある〉、〈自分の時間があり、落ち着いている〉であった。

母親たちは、子育ての忙しいなかでも〈1日のなかで自分だけの時間がある〉、〈自分の時間があり、落ち着いている〉ことから、自由に使える【自分の時間がある】ことによって『自由の欲求』が満たされていた。それは「子どもが学校に行っている時間が自由な時間」であったり、「朝4時から6時ぐらいが唯一静かで、1人で過ごせる時間」であったり、忙しいなかでも1日のなかで自分だけの時間があった。また「子どもが寝たあとはほっとする」ことや、「子どもを学校に送り出してから、家のことをして、ちょっとほっとする時間を持つと決めていく」などとあり、〈自分の時間があり、落ち着いている〉ことで、『自由の欲求』が満たされていた。

7. 自分の価値を確認できている

【自分の価値を確認できている】のサブカテゴリーは、〈人に認められたり、自分が役に立っていることが嬉しい〉、〈自己の成長を感じている〉であった。

母親は〈人に認められたり、自分が役に立っていることが嬉しい〉こと、〈自己の成長を感じている〉ことにより、【自分の価値を確認できている】状況であった。半数の母親が仕事をしており、「仕事をしていて、達成感ではないけど、なんか自分が役に立っていると思う」こと、「(客から)すごく褒めて

いたというのを聞いたりすると達成感はある」ことなどから、〈人に認められたり、自分が役に立っていることが嬉しい〉状況で『力(承認)の欲求』が満たされていた。また、子育てのなかで、「少しずつ、自分の気持ちも強くなったり、子どもを通して成長したりする部分はあると思う」こと、「独身のころより、気が長くなった」ことなど、〈自己の成長を感じている〉状況から、【自分の価値を確認できている】ことで、『力(承認)の欲求』が満たされていた。

8. 母親役割を肯定的に捉えている

【母親役割を肯定的に捉えている】のサブカテゴリーは、〈母親としての役割意識が高い〉、〈子育てに前向きである〉、〈子育てのなかで調整をしている〉であった。

母親は子育ての忙しいなかでも【母親役割を肯定的に捉えている】状況であり、『力(承認)の欲求』は満たされていた。母親は「意外と子どもといるのは好きなので、子離れできないほうだと思う」こと、「私は子育てについては全部見てやりたい」ことなど、〈母親としての役割意識が高い〉状況であった。また、「支援学校に行き出してから、今を大事にしたほうがいいと思えるようになった」こと、「全然、思うようにならないので、修行をさせてもらっているような感じ」であった。また、「この子はこの子と思えるように少しずつなってきた」ことで、〈子育てに前向きである〉状況であった。さらに、「今はそれを捨てて、これを捨ててって感じで対処方法が見えてきた」こと、「本を読んだり、講演を聞いて、納得している」ことなど、母親なりに〈子育てのなかで調整している〉ので、【母親役割を肯定的に捉えている】状況は、子どものために役に立っており、『力(承認)の欲求』が満たされていた。

VI. 考 察

本研究の目的は、ASD児をもつ母親が生活のな

かで、何がどのように満たされているのか、母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況を明らかにすることであった。

ASD児をもつ母親の支援を導き出すためには、基本的欲求が人間関係のあり方と健康とが密接に関係していることを重視しているグラッサーの5つの基本的欲求に依拠しながら考察をする。

1. ASD児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況とその欲求間の関連

母親がASD児を育てていくなかで、【体調が良い】という状況は、身体的側面の健康を維持していくための『生存の欲求』が満たされていたことを意味する。『生存の欲求』が満たされている状況においては、趣味の「フラダンスをしていることで、体調は良い」とあり、〈趣味や好きなことをして過ごしている〉という『楽しみの欲求』も満たされていた。そのことから、母親は身体的にも精神的にもバランス良く欲求が維持できていたと考えられる。さらに、「趣味というより主人と出かけたり、家族と一緒に出かけたり、買い物に行ったりすることが良かった」など、〈夫や子どもとともに楽しんでいる〉ことにより、『楽しみの欲求』も満たされていた。『楽しみの欲求』が満たされると、子育てでのストレスの気分転換につながると考える。

また、夫や子どもとともに楽しく過ごすことは、夫婦相互にリラックスできる状態であり、楽しみを共有することで所属感が高まり、『愛・所属の欲求』を満たすことにつながっていたと考えられる。浅野他(2011)が母親の心身のリフレッシュを促す支援が必要であることを示唆していることから、母親の『楽しみの欲求』を満たすことは重要である。すなわち、それはグラッサーが提唱しているように、人が快適に生活し、その人がその人らしく生きていくために必要不可欠なものである。

さらに、母親は夫について、楽しみを共有する存在だけでなく、【夫が子育ての協同者である】と捉え、心の拠り所としていた。つまり、子育てにおいても生活全般においても、夫のサポートは『愛・所

属の欲求』を満たしていた。しかも、夫の協力は満足感を得るとともに、同じ志をもち、ともに心と力を合わせ、助け合うという協同できる存在であるという意識も高められていくのである。

山田(2010)は、母親の育児ストレスを軽減するサポート源として、夫を筆頭に家族のサポートが重要であり、ASD児を育てる母親は定型発達児を育てる母親に比べて、より多くのサポート源を求めていることを示唆している。すなわち、ASD児をもつ母親は、夫のサポートによって『愛・所属の欲求』が満たされ、母親のストレスは軽減されると考えられる。そして、身体的側面の『生存の欲求』を満たすことができるのである。

さらに、母親は夫の愛情だけでなく、家族成員の〈子どもからの優しい心遣いがある〉ことにより、『愛・所属の欲求』は満たされていた。

子育てに不安や戸惑いがある母親にとって、〈妹夫婦が良き理解者である〉、〈同じ境遇にある母親同士は仲間意識が高い〉、〈近所や職場に何でも相談できる友人がいる〉ことなど【家族以外に信頼できる人がある】ことが大きな支えとなり、『愛・所属の欲求』が満たされていた。森口他(2008)や浅野他(2011)によれば、夫や親戚などの身近な人からの協力を得ることでストレスは感じにくく、身近な人からのサポートが重要であることを示唆している。しかし、家族以外にも信頼できる人の存在は、『愛・所属の欲求』が満たされ、ストレスは軽減できると考える。また、『愛・所属の欲求』が満たされることにより、『生存の欲求』も満たされるのである。

次に、【子どもの存在が心の支えになっている】ことは〈母親としての役割意識が高い〉状況にあり、子育てにおいて前向きな姿勢が伺えた。そして、【母親役割を肯定的に捉えている】ことにつながっていた。このことは、母親としての自己効力感を高め、『力(承認)の欲求』が満たされていたと考える。

また、【家族以外に信頼できる人がある】ことは、

〈人から認められたり、自分が役に立っていることが嬉しい〉など【自分の価値を確認できている】ことに関連し、他者から承認を受けたり、評価をされることによって、自分の存在価値を高め、『力（承認）の欲求』が満たされていたのである。

柿谷、井上（2011）は、良好な人間関係を構築することで、『愛・所属の欲求』が満たされると同時に『力（承認）の欲求』も満たされ、他の欲求にも直結していると説明している。

母親にとって、夫をはじめとする身近な人との良好な人間関係は重要であり、また良好な人間関係を築くためには、子どもの障害を理解してくれる他者の存在が重要である。

母親にとって〈子どもの成長が嬉しい〉ことは『楽しみの欲求』に関連していた。山田（2010）は子どもの成長が育児ストレスを緩和させることを示している。このことは、『楽しみの欲求』が『生存の欲求』にも関連していることを意味する。そして、子どもの成長や、夫や子どもとの楽しみ、趣味や好きなことをして過ごすことは、気分転換になるため、『楽しみの欲求』にもつながっていた。浅野他（2011）の報告からも、ASD児の行動特徴が母親の育児ストレスに直結しているわけではなく、母親の心身の状態、家族機能、生活の質との関連が大きいことから、母親の心身のリフレッシュは必要であることを示唆している。

なおかつ、柿谷・井上（2011）は、『力（承認）の欲求』を満たすとき、お互いが尊重されている状態であり、『自由の欲求』も満たされ、互いに興味を持って楽しく過ごすことができることから『楽しみの欲求』も満たすことができることを示している。そのことは、【母親役割を肯定的に捉えている】ことをさらに強め、自分が必要とされている人であることを認識しながら、母親としての役割を遂行している。そして、それは【自分の価値を確認できている】ことに連動し、『力（承認）の欲求』は満たされ、『楽しみの欲求』とともに関係していた。

したがって、人から愛されたり、認められたり、

楽しむためには他者の存在が必要不可欠であり、良好な人間関係の構築が重要となる。

また、母親たちは子育てで忙しいなかにも〈1日のなかで自分だけの時間がある〉ことで、誰からも束縛されることのない自由な時間を得ており、気分転換を図っていた。それは、精神的にも身体的にも開放される時であり、『自由の欲求』を満たしながら、『生存の欲求』の体調を整えていると言える。すなわち、『生存の欲求』である【体調が良い】状況を維持していくには、『楽しみの欲求』を確保しながら、同時に【夫が子育ての協同者である】ことを前提に『愛・所属の欲求』を満たす必要がある。そして、『愛・所属の欲求』である〈子どもからの優しい心遣いがある〉状況は、『力（承認）の欲求』である〈母親としての役割意識が高い〉ことにもつながり、ストレスを受けやすい日々の子育てを前向きに捉えることができるようになる。また、【家族以外に信頼できる人がいる】ことは心の支えでもあり、家族以外の人とも人間関係を良好に保つことで、さらに『愛・所属の欲求』が満たされることになり、日々のストレスが緩和されると考える。

以上、考察してきたASD児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況とその欲求間の関連について、図にまとめた（図1）。

2. ASD児をもつ母親のメンタルヘルスへの支援の糸口

ASD児をもつ母親のメンタルヘルスを維持するためには、母親が快適に生活し、自分らしく生きていく必要がある。そのためには、基本的欲求が満たされている状況にあることが重要であると、1. の考察から明らかになった。その中核になるものとして、『愛・所属の欲求』が導き出された。

そこで、母親のメンタルヘルスの支援の糸口を次のように考える。

まず、母親が日々の子育ての苦悩や困惑を抱えながらも、より良い生活を送るためには、良好な人間関係を構築する必要がある。一番身近な夫をはじめとする信頼できる人の存在が重要となる。

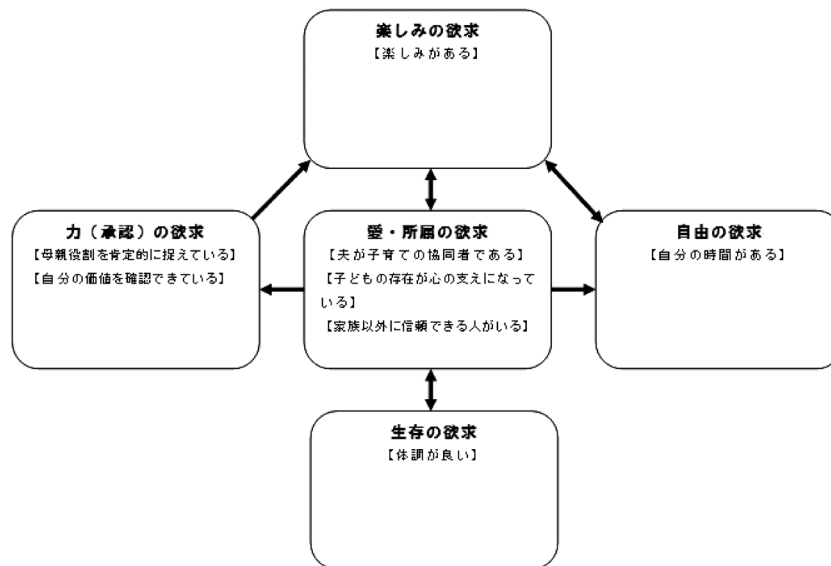


図1. 自閉症スペクトラム障害児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている状況とその欲求間の関連

Glasser (1998) は、ストレスなどの心理的な悩みを抱えている人は家族などの重要他者との人間関係がうまく構築できていないことを指摘している。ゆえに、母親にとって重要他者となり得る父親の存在は大きく、父親である夫が良き理解者になり、夫からの協力が得られるような働きかけが必要である。そのためには、支援者は『愛・所属の欲求』に直結する夫婦間の関係性に着目し、夫婦間での良好な人間関係を構築できるようなサポートをしていく必要がある。

また、母親は子育てを通しての母としての価値だけでなく、一個人としての価値を承認できることが必要である。そのためには、母としての自己概念に留まらず、妻としての価値にも注目する必要がある。そして、母親自身の自尊感情を大切に、自己肯定感が高められるような支援が必要である。つまり、夫婦関係が良好であれば、母親は妻としての自己効力感が上がり、自己肯定感にもつながる。そのためにも、良好な夫婦関係を構築し、維持できるようなサポートが必要である。そして、良好な夫婦関係を維持していくことで、母親は精神的にもゆとりがもてるようになり、母親が自由になれる時間を確保することで、さまざまなことに楽しみを持ちながらバランス良く他の欲求を満たしていけると考え

る。

現在、発達障害児をもつ家族への支援には主に2点ある。それは子どもの障害に関する内容や相談機関などに関する情報提供と、親が子どもに対してより良い対応をするためのペアレントトレーニングである(中村, 2011)。社会資源に関する情報提供は、親が子どもの障害受容を助けるために必要不可欠な支援である。また、ペアレントトレーニングは悪循環に陥りやすい親子関係において、子どもが健やかに成長発達を遂げるために欠かすことのできない支援である。それらは子どもを中心とした支援であり、家族成員のキーパーソンとなる親自身が献身的に療育に取り組むことを期待され、自分の生活を犠牲にし、疲弊していることもある。そのため、子どもを含めた家族を中心とした支援がなされてきている。野田(2008)は適切な情報提供と家族への精神的サポートとともに、家族の対応力の向上の重要性を報告している。この家族の対応力には、家族が遭遇する幅広い多様な課題に家族自身が対応していくための力、エンパワメントに基づく援助が重要であることを示唆している。

今回の研究では、基本的欲求の視点から『愛・所属の欲求』に関するASD児をもつ夫婦の関係性と、ASD児の母親の理解者の存在が重要であるととも

に、『楽しみの欲求』に関する母親自身の楽しみづくりが重要であることが示唆された。そこで、支援者となる専門家は基本的欲求の充足情況に注目し、『愛・所属の欲求』を満たす支援とともに、『楽しみの欲求』を満たす支援の重要性の認識を高める必要がある。しかし、母親の基本的欲求の充足情況は内面的なものであり、他者からの理解にズレが生じやすい。そのため、まずは母親の基本的欲求の充足情況を測定する尺度の作成が必要であると考えられる。

そして、Glasser (1998) は、自らの欲求は自らで満たす責任があり、私たちがコントロールできる行動は唯一自分の行動だけであると提言している。そのことから、家族の対応力の一環として、子どもの養育の中心者である母親自身が自らの基本的欲求の充足情況に気づき、母親が自らで欲求を満たすことの重要性を高める支援が必要である。母親が、自らで欲求を充足することの認識を高め、自らで欲求を満たすことができるならば、母親のストレスは軽減され、母親のメンタルヘルスの維持が期待される。

今後は、母親の基本的欲求の充足情況を測定する尺度の作成とともに、欲求の強弱を測定する尺度の作成が必要である。

VII. 本研究の限界と今後の課題

本研究において、ASD児をもつ母親が生活のなかで満たされている情況を明らかにし、母親の主観的な基本的欲求の情況およびその欲求間の関連を検討することができた。しかし、基本的欲求には、満たされていない側面もあり、満たされていない情況からも検討していくことが課題である。また、母親には個々の生活環境、認知の違い、欲求の強弱などがあるために一般化には限界がある。今後は母親の個々の欲求の強弱を捉えた欲求の満たされている情況を検討していくことが課題である。

VIII. 結論

1. ASD児をもつ母親の主観的な基本的欲求が満たされている情況には【体調が良い】、【夫が子育ての協同者である】、【子どもの存在が心の支えになっている】、【家族以外に信頼できる人がいる】、【楽しみがある】、【自分の時間がある】、【自分の価値を確認できている】、【母親役割を肯定的に捉えている】があった。

2. ASD児をもつ母親の基本的欲求の情況およびその欲求間の関連では、『愛・所属の欲求』は、『生存の欲求』、『力（承認）の欲求』、『楽しみの欲求』、『自由の欲求』に連動し、さらに『生存の欲求』と『楽しみの欲求』とは相互の関係にあった。

3. ASD児をもつ母親が快適に生活し、自分らしく生きていくためには、基本的欲求を満たすことが重要であり、その中核になるものとして『愛・所属の欲求』が導き出された。

4. ASD児をもつ母親が夫をはじめとする家庭内での人間関係を良好に維持できる支援が必要であることが示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただきました研究対象者の皆様に心より感謝申し上げます。本研究は2013年度関西福祉大学大学院看護学研究科に提出した修士論文の一部を加筆修正したものである。また、本研究の一部は第21回日本家族看護学会で発表した。

〔受付 15.11.16〕
〔採用 16.09.29〕

文献

- Abraham H. Maslow (1970) / 小口忠彦訳, 改定新版 人間性の心理学 (17) : 57, 83, 103, 産業能率大学出版部, 東京, (1970/2004)
- 朝倉和子, 高橋幸三郎: 障害児の母親が感じる生活困難と対応の仕方—子どもの障害を「知らせる」から「理解してもらう」プロセスについて—, 東京家政学院大学紀要, 47 : 11-19, 2007
- 浅野みどり, 古澤亜矢子, 大橋幸美, 他: 自閉症スペクトラム障害の幼児をもつ母親の育児ストレス, 子どもの行動特徴, 家族機能, QOLの現状とその関連, 家族看護学研究, 16(3) : 157-168, 2011

- Frank G. Goble / 小口忠彦訳, マズローの心理学 (初版): 80-81, 産業能率大学出版部, 東京, (1970/1972)
- 後藤由衣, 小川陽大, 藤樫舞子他: 広汎性発達障害児を育てる親の障害受容とストレスの関係についての研究, 日本発達系作業療法学会誌, 1(1): 9-14, 2012
- 今井礼子, 浅野みどり, 小林加奈: 幼児期の自閉症児をもつ家族の家族機能および支援に関する検討, 日本看護医療学会雑誌, 8(2): 17-25, 2006
- 柿谷正期, 井上千代: 選択理論を学校に—クオリティ・スクールの実現に向けて—(初版), 15, ほんの森出版, 東京, 2011
- 河野順子: 自閉症児をもつ母親支援を考える—母親の心理的側面に焦点を当てて—, 東海学園大学研究紀要, 18: 35-47, 2013
- 川上あずさ: 自閉症のある子どもをもつ母親の経験, 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要, 9: 1-6, 2013
- 小池伸一, 古川宏, 大西満他: 「障害を有する子どもの母親」の心理状況および心理過程, 吉備国際大学保健福祉研究所研究紀要, 8: 23-28, 2007
- 桑田左絵, 神尾陽子: 発達障害児をもつ親の障害受容過程—文献的検討から—, 児童青年精神医学とその近接領域, 45(4): 325-343, 2004
- 松岡純子, 玉木敦子, 初田真人他: 広汎性発達障害児をもつ母親が体験している困難と心理的支援, 日本科学学会誌33(2): 12-20, 2013
- 森口香, 岩満優美, 山本健司他: 広汎性発達障害の子どもをもつ母親のソーシャルサポートの検討, ストレス科学, 23(1): 104-114, 2008
- 中村志津香: 発達障害児・者をもつ家族における支援の現状, 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要, 20: 86-99, 2011
- 中山かおり: 就学前の発達障害の特徴を持つ子どもの保護者のための個別育児支援プログラムのアウトカム評価, お茶の水看護学雑誌, 6(1): 54-69, 2012
- 野田香織: 広汎性発達障害児の家族支援研究の展望, 東京大学大学院教育学研究科紀要, 48: 211-227, 2008
- 岡野維新, 武井祐子, 寺崎正治: 広汎性発達障害児をもつ母親の育児ストレスと父親の母親に対するサポート, 川崎医療福祉学会誌, 21(2): 218-224, 2012
- 尾野明未, 茂木俊彦: 障害児をもつ母親の子育てレジリエンスに関する研究, 心理学研究, 2: 67-77, 2012
- 坂口美幸, 別府哲: 修学前の自閉症児をもつ母親のストレスの構造, 特殊教育学研究, 45(3): 127-136, 2007
- 坂本莉恵, 一門恵子: 自閉性障害児を複数にもつ母親の心理変容過程, 応用障害心理学研究, 10: 49-60, 2011
- 庄司妃佐: 軽度発達障害が早期に疑われる子どもをもつ親の育児不安調査, 発達障害研究, 29(5): 349-358, 2007
- 刀根洋子: 発達障害児の母親のQOLと育児ストレス—健常児の母親との比較—, 日本赤十字短期大学紀要, 15: 17-23, 2002
- 津田芳見, 田中美沙, 高原光恵他: 高機能広汎性発達障害幼児とその親へのペアレントトレーニングによる効果の検討, 小児保健研究, 71(1): 17-23, 2012
- 渡部奈緒, 岩永竜一郎, 鷲田孝保: 発達障害幼児の母親の育児ストレスおよび疲労感—運動発達障害児と対人・知的障害児の比較—, 小児保健研究, 61(4): 553-560, 2002
- William Glasser: Choice Theory—A new psychology of personal freedom, 17, 25-41, 41-43, 72-79, 333, 332, Harper Collins Publishers Inc., USA, 1998
- William Glasser / 真行寺功訳, 現実療法—精神医学の新しいアプローチ—(初版): 2, サイマル出版会, 東京, (1965/1975)
- 山田陽子: 療育機関に通う自閉症スペクトラム児をもつ母親の育児ストレスに関する研究, 川崎医療福祉学会誌, 20(1): 165-178, 2010
- 山根隆宏: 高機能広汎性発達障害児をもつ母親の診断告知時の感情体験と関連要因, 特殊教育学研究, 48(5): 351-360, 2011
- 柳川敏彦, 平尾恭子, 加藤則子他: 自閉症スペクトラム障害の子ども家族のためのペアレント・プログラムの実践—グループ・テッピングストーンズ・トリプルPの効果について—, 子どもの虐待とネグレクト, 14(2): 135-152, 2012
- 吉岡恒生: 言葉の遅れを主訴とする広汎性発達障害児への母子発達支援—子どもの発達と母親の気持ちの変化を追って—, 治療教育学研究, 26: 11-19, 2006

The Emotional Conditions of Satisfaction as the Subjective Basic Needs among Mothers of Children with Autism Spectrum Disorder

Kiyomi Fujii^{1) 2)} Reiko Ushio¹⁾

1) Department of Nursing, School of Nursing, Himeji University

2) Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School
Graduate Course of Child Care and Education

Key words: Basic needs, Emotional conditions of satisfaction, Mothers, Children with Autism Spectrum Disorder

Objective: This study aimed to elucidate the emotional conditions of satisfaction as a subjective basic needs among mothers of children with Autism Spectrum Disorder (ASD), and obtain suggestions to support the mental health of these mothers.

Method: Semi-structured interviews were conducted with 10 mothers of children with ASD, and the gathered data were analyzed by qualitative inductive analysis.

Results: The following eight categories describing the emotional conditions of satisfaction as a subjective basic needs among mothers of children with ASD emerged: [Feeling physically well], [The husband is a partner in parenting], [The presence of my children provides emotional support], [Having someone to trust other than family], [Having something to look forward to], [Having one's own personal time], [Knowing one's own self-worth] and [Positive acceptance of the role as a mother].

Conclusion: As for the relationship between circumstances and requirements of the basic needs of mothers of children with ASD, the [need of love and belonging] was linked to the [need of power], [need of fun], and [need of freedom], in addition to also correlating with the [need of survival] and [need of fun]. For a mother to live comfortably and as herself, it is important to fulfill her basic needs, with the [need of love and belonging] as the core. Therefore, it was suggested that support for the mother to maintain a good interpersonal relationship within the home, such as between herself and her husband, is needed.